牧丘第三小学校

「確かな学力を身に付けた児童の育成」
～言語活動の充実を図る実践を通して～

I　研究の内容

1　研究の内容と方法

（1）「言語活動の充実」についての理論研究

講師を招いての学習会を実施したり，文献や先行研究に学んだりする。

（2）検証授業の実施

授業案検討を十分行い，検証授業を行う。指導主事を招聘し，指導を受ける。

（3）一人一実践

全学年で授業公開を行なう。全員での授業案検討及び授業後の研究会を行う。

（4）日常的な言語活動の充実・言語環境の整備

各学年ごと，言語活動の充実に向けた継続的な取り組みを行う。

（5）少人数を活かした，個に応じた指導の工夫と評価

2　実践内容

（1）学習会

ア「言語活動の充実と授業改善」

講師　筒井寿教頭

イ「言語活動について」

講師　総合教育センター　小俣岳研修主事

（2）研究授業

ア　第４学年　理科　「物の体積と温度」　授業者　竹川俊之教諭

指導助言　峡東教育事務所　小林俊彦指導主事

（3）授業実践（一人一実践）

ア　第１学年　算数　「３つのかずのけいさん」　授業者　中村潤子教諭

イ　第２学年　国語　「絵本大好き」　授業者　柏原健仁教諭

ウ　第５学年　算数　「どんな計算になるのかな」　授業者　関口若子教諭

エ　第６学年　算数　「割合の表し方を考えよう」　授業者　石原喜久夫教諭

（4）各学年における言語活動，言語環境の充実と授業改善に向けた取り組み

ア　各教科の特性をいかし，学習の目標を達成するための言語活動を授業に取り入れるようにした。

イ　児童自身が考えを整理させたり，話し合いを深めるためにホワイトボードなどを活用した。

ウ　新聞を読む活動やスピーチ，日記など，日常的な言語活動の充実を図った。

エ　各教科の用語や表現法などを児童が理解し，使うことができるよう努めた。

Ⅱ　成果と課題

1　成果

（１）研究主題は，本校児童の実態に即したものであり，昨年度までの研究を基にして，言語活動の充実に焦点を絞って研究することができた。「確かな学力を身につけさせる」ことは，文科省・県教委・市教委からの要請もあり，学校教育目標の具現化とも合致している。本校のような小規模校の良さを自覚し，本校だからこそできる研究を深めていきたい。

（２）講師を招いて理論研究できたことは有意義であり，講師のお話，提案資料等を通して，言語活動のとらえ方や各教科の特性を踏まえた言語活動について学ぶことができ，その後の研究に大いに役立った。また，学習会を通し，研究指針を，職員で共有できたことはとても良かった。

（３）少人数での授業であるが，様々な発表の場や言語活動によるやりとりの場を意図的に設定することにより，児童の理解を深めることができた。少人数をいかした「言葉」を重視する学び合いの活動について，様々な工夫や取り組みができた。また教科や学習内容に応じて，目標を達成するための言語活動を意識して行うことができた。

（４）全学年で言語活動を取り入れた授業実践ができたこと，個々の児童の実態を把握し，実態に合わせた授業展開が行われたこと，児童が意欲的に学習に取り組めたことなど大きな成果であった。児童一人ひとりの向上を目指した研究ができ，児童の成長をみることができた。

2　課題

（１）本校のよさ（少人数で授業ができる）をいかすために，一人ひとりに寄り添った指導，一人ひとりの個に応じた指導を授業で展開したい。また，個々の課題を明確にし，児童の力を高めるために，個別カルテの作成と授業での活用も行いたい。

（２）いつ，どこで，どのタイミングで，どのような方法や手段で言語活動をさせるのか，教科や単元ごとの言語活動を明確にしていく必要がある。

（３）「確かな学力」の向上のために，個々の児童の学力課題が明らかになるように資料を整理し，その課題を克服する授業実践を探っていきたい。また，学力向上のためには，保護者や祖父母など家族の協力が不可欠である。家庭学習について，全校での取り組みも考えていきたい。

Ⅲ　成果物

1　研究授業学習指導案及び資料

（１）第４学年　理科学習指導案「物の体積と温度」

2　授業実践指導案

（１）第１学年　算数科学習指導案　「３つのかずのけいさん」
（２）第２学年　国語科学習指導案　「絵本大好き」
（３）第５学年　算数科学習指導案　「どんな計算になるのかな」
（４）第６学年　算数科学習指導案　「割合の表し方を考えよう」

（研究主任　竹川俊之）